

各 位

東京都印刷工業組合
理事長 浅野 健

第 6 回支部長会報告書

標記会合について下記のとおりご報告致します。

記

1. 日 時 平成 20 年 2 月 7 日(木) 16:00~17:30
2. 場 所 株モトヤ 6 階ホール
3. 出席者 (敬称略・順不同)
(支部長) 吉田(千代田)、小西(代理、日本橋)、西山(京橋)、小島(港)、菊地(新宿)、田中(文京)、轟(上野)、横尾(浅草)、有菌(墨田)、島村(江東)、藤井(城南)、松村(山之手)、草間(城西)、森(杉並)、細谷(豊島)、朝比奈(板橋)、長嶺(練馬)、鈴木(北)、木村(荒川)、長山(足立)、加藤(墨東)、大久保(三多摩) 各支部長
(本 部) 浅野理事長、山岡、利根川、水上、花崎、工藤、森永各副理事長、武石専務理事(事務局) 生井局長、鴨井次長、中村(徹)、中村(俊)各課長、青木担当

4. 議事の概要

生井局長の司会で開会。水上副理事長の挨拶後、浅野理事長を議長に議事に入った。

【報告事項】

次の報告事項は事前に内容を連絡してあることから、生井局長が一部補足説明を加えることで、あとは割愛した。

《訃報》

- 1 月 11 日 元理事・練馬支部 和田省三氏(享年 86 歳)
- 1 月 21 日 当組合相談役・江東支部 鈴木留治氏(享年 92 歳)

《各種行事関係》

1. 日印産連新年交歓会の参加結果

《委員会事業関係》

1. 資材動向調査結果(経営革新)
2. 経営革新・マーケティング(営業)合同委員会の開催
3. 戦略営業のための実践マーケティング講座の開催(マーケティング(営業))
4. 新入社員研修セミナー(生産・環境(制度教育))

《その他》

1. 次期常任理事候補者の推薦
2. 平成 20 年度支部総会の開催時期
3. 支部配送
4. 今後のスケジュール

【提案事項】

紹介：プリントバックで支部報を綴じるファイル／細谷豊島支部長

支部報を綴じるファイルを作成した。他支部でも希望があれば業者を紹介するので利用してほしい。

【協議事項 1】平成 19 年度事業推進について

1. 印刷資材動向と製紙メーカーによる「古紙配合率偽装問題」への対応について

「古紙配合率偽装問題」への対応について、武石専務理事が概要以下説明した。

本件については現在、日印産連が印刷業界の主体となって対策の検討、また製紙連合会、流通団体等用紙供給側への対応をしており、詳細な経緯等については東印工組ニュースで随時報告を行っている。構成 10 団体の会長による緊急会議（2/5）では、以下のような提案が出され、今後検討していくこととなった。

日印産連として独自のガイドラインや対応マニュアルを作ってはどうか

製紙連合会に印刷担当窓口を作るよう依頼し、そこに日印産連もユーザー側の立場で加わることを申入れてはどうか。そこで、再生紙の定義、法解釈等について、印刷業界としての見地から意見を反映させたい。

用紙供給側との対応については、最終的には印刷会社各社の対応になる。メーカーとの直接的なやり取りは難しく、用紙を調達した卸商や代理店等との折衝になるので、流通団体と更にコミュニケーションを取り、個々への対応について意見交換を行ってはどうか。

日印産連内に印刷会社向けの相談窓口を設けたらどうか。

本件について水上副理事長が以下述べた。

古紙配合率偽装問題に係る、印刷会社としての法的責任について、大手印刷会社の法律担当者によれば、印刷会社は製紙メーカーの古紙配合率表示を信用して紙を使ってきたので、責任は問われないとの見方が強い。取引先から問合せがあった場合には、東印工組ニュース等の情報を活用して回答してほしい。

一方、用紙供給側に対する問題対処への持込みについては、卸商団体である日紙商が印刷会社個別に対応するとしている。

印刷業界としては、古紙配合率表示を信用して使用してきた被害者の立場で事態の成り行きを静観していきたい。

また、浅野理事長が以下述べた。

全国的に見ると、取引先から刷りなおしやシール貼付による古紙配合率表示訂正、または指定用紙入手困難による操業停止等の事案が多く寄せられている。現状でクレームが来ていなくても、今後増加することが予想される。日印産連の相談窓口については、開設され次第追って連絡するので、困ったことがあったらそちらを利用してほしい。

刷りなおしや古紙配合率訂正等、印刷会社として対応しなければならない当面の問題と、再生紙の定義や官公庁のグリーン購入法に係る調達基準などの定めの問題とは区別して考えていきたい。

また、大豆油インキのソイマーク基準未達の問題も発生し、印刷会社ぐるみの問題と誤解されかねない。検証手段がないので慎重な対応をとりたいが、取引先に対する説明責任があることは認識しておきたい。

引続き、印刷資材の動向について、水上副理事長がレポートという形で以下説明した。

年明け早々に製紙業界を襲った年賀はがきの古紙配合率偽装のニュースは波紋を広げ、「環境偽装」として大きな社会問題となっている。一方で製紙メーカーは、予想を超える原燃料価格の高騰

を受け、採算悪化に苦しんでおり、2008年3月期は大幅な減益となる見込みである。

印刷用紙の再値上げ発表を前にしての古紙配合率偽装問題の発覚は、メーカーの製品価格値上げによる採算改善のスケジュールに狂いが生じるだけでなく、これまでメーカーが値上げの理由として主張してきた製造コストに対する信頼性まで揺るがせることになった。古紙配合率偽装問題について、1月17日付の朝日新聞は、1面トップで年賀はがきの古紙配合率偽装の問題を報じ、日本製紙の中村社長は記者会見で他の再生紙製品でも偽装を認め、かなり以前から常態化していたことを明らかにした。その後の調査で王子、大王、北越、三菱、中越パルプの各社でも偽装が判明、調査が進むにつれ、業界全体で17社が偽装を行っていたことが確認された。

その内容を見ると、印刷情報用紙でグリーン購入法に適合する商品は、王子製紙の一部製品に限られることが分かった。長年偽装が放置されてきた背景には、「再生紙」の定義が曖昧であることと、本当に再生紙かどうか、古紙が何割含まれているのかを科学的に検証する方法がないことが挙げられる。グリーン購入法に数値基準はあるものの、製品をチェックするシステムがなく、メーカーの申告に任されているのが現状である。また、古紙価格の高騰も一因と考えられる。以前は安価で良質な古紙をいくらでも手に入れることができたが、最近では中国での需要が急増し、メーカーは価格の高騰と入手難に苦しんでいるようである。製品になれば検証する方法がなく、常態化してきた慣れで、偽装しているとの意識は低かったものと思われる。日本製紙では、社長が辞任を表明する事態に発展しており、メーカーとしてはもっと早く手を打つべきであったと思われる。地球温暖化が深刻な問題となっている今、メーカーは環境問題に対する世の中の動きが見えなかったのではないか。グリーン購入法の取扱い等の問題もあり混乱はしばらく続きそうであるが、印刷会社にとっても影響が大きい問題であり、できるだけ早い沈静化、正常化を望みたい。

用紙値上げの動向については、昨年夏に製紙メーカーが目指した印刷用紙10%の値上げが、ほぼ目標どおり達成された。メーカーにおいては、その後、予想を上回る原燃料価格の高騰が襲い、08年3月期は大幅な減益を予想している。この状況を打開するため、メーカーは再値上げを打ち出す構えを見せ、昨秋以降、メーカー首脳も度々値上げの必要性を訴えている。実施時期は4月からとして準備を進めているようである。ところが年明け早々、古紙配合率偽装問題が発覚し、メーカーや流通は対応に追われてとても値上げを切り出せる状況ではなくなっていた。「古紙偽装と値上げは別問題」という強気の発言も聞かれるが、現実的ではない。今後、どのタイミングで値上げを打ち出せるのか、今のところ目処が立たない状況だと思われる。今回の古紙配合率偽装問題は、今まで値上げの根拠としてきたメーカーのコストに対する説明に疑問符を付ける結果となった。原燃料価格が大きなコストアップ要因になっていることに疑う余地はないが、それは紙パルプだけでなく全産業共通の問題である。紙パルプ業界にも一層の経営合理化が必要との見方が強まり、厳しい視線が注がれることになるとと思われる。メーカーはこの問題をできるだけ早く沈静化させ、値上げに取り組む意向のようであるが、すぐに取引先の理解を得ることは難しく、急ぐことはできないと見られる。印刷業界の現状からすれば、これ以上の値上げは受け入れがたいが、メーカーも原燃料価格の高騰が続く限り、時期はずれるにせよ、値上げに動くと考えられる。これは、印刷会社と製紙メーカーとが値上げを巡って対立しているだけでは解決しない問題である。根底にある原燃料価格の上昇は全産業に共通の問題であり、克服すべき課題でもある。各企業が経営の効率化を進めると同時に、それでも吸収できないコスト上昇分は製品価格に転嫁するしか解決の道はない。また、再度の値上げが実施されるのであれば、立場の弱い卸商や中小印刷業にしわ寄せが来る不公平な値上げが行なわれないように監視することが必要になってくる。製紙メーカーに対しては新聞・出版等への転嫁も促していかなくてはならないと考える。

2. 組合員加入増強キャンペーンの推進結果

新規加入申込みのあった7支部から、加入に至った経緯について下記のとおり説明された。

(島村江東支部長)

自社が頻繁に外注をしている企業であるので声を掛けてみたところ、興味を示してくれて加入に至った。

(横尾浅草支部長)

副支部長の会社と取引のあるという縁で加入してもらった。

(木村荒川支部長)

当支部は2社の加入があった。キャンペーン期間中に作成したノベルティグッズをもって勧誘に回ったときに反応があった。

(長嶺練馬支部長)

代表者が亡くなり1度組合を脱退したが、息女が後を継ぐことになったのを機に、他の印刷会社からの勧めもあって、再加入をしたというのが経緯である。

(小西日本橋支部長代理)

支部員が知り合いの会社に声を掛けたことがきっかけで加入に至った。

(菊地新宿支部長)

支部員が個々の印刷会社のために加入を勧めているという姿勢を強調して声を掛けた結果だと思ふ。

(朝比奈板橋支部長)

支部でレクリエーション等を行なうときに、出席者に向けて勧誘協力をお願いをしていることが奏功したものと考えている。

また、商工会議所等の名簿から未加入の印刷会社を見付けては声を掛けるようにしている。加入を考えている会社があれば時間をおかずに説明に赴いて説得することを心がけている。出入りの資材業者にも加入してくれそうな印刷会社を紹介してもらっている。

生井局長が、組合員加入増強キャンペーンの推進結果について概要以下説明した。

昨年9月から12月までのキャンペーン期間中に18社が加入し、前年同期の17社を上回った。4月から本日までの加入社数で見ると、35社となっており、年間で35社だった昨年度を最終的には上回るものと見ている。一方、脱退についてはこれまでで82社となっており、昨年度の年間128社と比較すると歯止めが掛かっていると思われる。

現時点で、上野支部と板橋支部が期首目標5%増を達成しているため、このままこの数字が維持できれば、表彰をさせていただく。

また、前々回菊地新宿支部長が提案した組合加入促進の専従職員を置くことについては、組合運営委員会で検討した結果、仕事上の繋がりが無い事務局員では勧誘が難しく、また仲間意識を持ってもらうためにも、近隣の支部員から声掛けを行なってもらうこととし、支部から依頼があれば、当該支部担当の事務局員がサポートを行なうことは可能である。いずれにしても建設的な意見を持ち寄って次年度検討することで了承されている。

3. 共済制度加入増強キャンペーンの推進結果

生井局長が概要以下説明した。

(1)見積り依頼件数は火災3件、自動車4件となっている。

(2)5 共済の業績は年間で算定

5 共済とも加入目標未達であるものの、前年同期比では生命（110.6%）、火災（195.0%）、自動車（142.9%）、せつび（178.6%）、医療（200.0%）と高い成績となった。

年間での5共済の業績上位3支部には3月開催の理事会で表彰を行なう。

4. 「組合員の集い」の参加申込み状況

生井局長が概要以下説明した。

新規加入招待者が15名、組合員が561名、来賓が21名で合計597名が参加予定となっている。

5. 新たな収益事業について

生井局長が概要以下説明した。

東京中小企業経友会事業協同組合が行っているガソリンの共同購買カード事業の員外利用について、組合員に支給されるカードにはクレジット機能等はなく、手数料を取られる等の費用負担もなく、1リッターあたり掛売りで10円、現金で5円程度の燃料代が削減される等のメリットがある。また、組合の事務負担もほとんどなく、利用量1リッターあたりで0.5円のマージンが収入として見込めることで、新たな組合事業とすることとした。

また、長山足立支部長から、燃料カードが使用できるガソリンスタンドの所在地が知りたい旨発言があったので、調査の上、追って連絡することとした。

6. PRIMEDEX TOKYO 2008の開催準備状況について

生井局長が概要以下説明した。

- (1) 出展社募集 過去に出展実績のある約800社へ1月中旬に案内発送
- (2) 装飾会社の選定 企画コンペを実施して、(株)廣目屋に決定
- (3) 公式ポスターの作成 デザイン募集結果 応募点数92点(応募者数66名、うち学生8名)
最優秀作品1点、佳作4点
ポスター(A2判)は6月頃に全組合員へ配付する
- (4) ホームページの開設
- (5) 今後のスケジュール
実行委員会 3/11、展示部会 2/27、企画部会 2/18、広報部会 未定

【意見交換】

1. 「組合員の集い」か「新年会」か

標記の件について、平成20年度以降、どちらが望まれるか以下意見交換が行われ、今後も継続検討していくこととした。

(加藤墨東支部長)

当支部は「組合員の集い」が良いという意見が多い。関連業者が集まるよりも、同業者が集まって講演会や懇親会を行なったほうが、身になるように思える。

(有園墨田支部長)

「組合員の集い」は会費が安く、参加者が集まりやすい。多くの参加者が望まれることが集いの第一義なので、こちらのほうが良いのではないかと。

(細谷豊島支部長)

当支部は「新年会」を希望する声も根強いので、隔年で交互に開催してみてもどうか。

(田中文京支部長)

会費がリーズナブルなことで、「組合員の集い」を希望する声が多い。「新年会」のように会費が高いと、参加者が減少する恐れも出てくるのではないか。

【その他】

1．常任役員・支部長懇親会(旅行)の企画について

生井局長が以下説明した。

- (1)日 程 4月4日(金)～5日(土)
- (2)場 所 箱根湯本「萬翠楼 福住」
- (3)会 費 30,000 円程度

以上